

II 質問紙調査結果の概要

1 生徒質問紙調査

(1) 生活等に関する調査について

①自己実現・自己効力感について

- ・ I (10)「将来の夢や目標を持っています。」に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」）をした生徒の割合の推移

	中学校2学年の時	高等学校1学年の時	高等学校2学年の時
令和5年度高等学校1学年	74.2 *	72.0	
令和5年度高等学校2学年		71.9	72.0

- ・ I (8)「努力すれば、将来の夢や目標はかなうと思います。」に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」）をした生徒の割合の推移

	中学校2学年の時	高等学校1学年の時	高等学校2学年の時
令和5年度高等学校1学年	64.7 *	90.8	
令和5年度高等学校2学年		90.1	90.4

(注) * : 集計対象者数は21,097名（令和3年度広島県学力調査報告書より）

** : 中学校2学年時（令和2年度）の調査は、未実施

（中学校2学年から高等学校2学年までの推移について）

I (8)「努力すれば、将来の夢や目標はかなうと思います。」に対して、肯定的回答をした生徒の割合は、中学校から高等学校に向けて増加傾向にある。

②生活時間について

- ・ I (19)「平日（月曜日～金曜日）、1日にどのくらいテレビを見たり、ゲーム機器を用いて遊んだりしますか。」に対する生徒の回答の割合の推移

学年	年度	していない	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上
1	R1	4.9	25.4	47.5	22.3
	R2	5.2	26.7	46.9	21.1
	R3	6.1	24.9	45.9	23.2
	R4	7.2	24.7	44.0	24.0
	R5	8.2	24.4	41.9	25.5

学年	年度	していない	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上
2	R1	5.8	26.7	46.7	20.8
	R2	6.2	27.5	45.5	20.7
	R3	7.3	28.3	44.1	20.3
	R4	7.7	25.7	42.8	23.7
	R5	9.6	26.3	40.9	23.2

（5年間の推移について）

していない、3時間以上の生徒の割合が増加傾向にある。

- ・ I (20) 「平日（月曜日～金曜日）、1日にどのくらい携帯電話等を用いてメールやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を利用しますか。」に対する生徒の回答の割合の推移

学年	年度	していない	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上
1	R1	3.9	27.6	46.5	22.2
	R2	3.3	26.8	46.0	24.0
	R3	2.5	23.6	46.4	27.5
	R4	2.1	22.0	46.5	29.3
	R5	2.3	20.8	45.8	31.0

学年	年度	していない	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上
2	R1	3.7	28.6	45.2	22.5
	R2	2.5	26.5	46.6	24.4
	R3	2.5	25.0	45.7	26.8
	R4	2.1	21.7	47.0	29.1
	R5	2.0	19.9	46.5	31.6

（5年間の推移について）

3時間以上の生徒の割合が増加傾向にある。

- ・ II (57) 「平日（月曜日～金曜日）、家庭では、1日にどのくらい勉強しますか。（学習塾や家庭教師との学習はのぞきます。）」に対する生徒の回答の割合の推移

学年	年度	していない	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上
1	R1	17.1	35.5	43.2	4.3
	R2	15.5	36.7	43.6	4.1
	R3	15.6	37.9	42.9	3.7
	R4	17.3	37.7	41.4	3.7
	R5	20.6	38.0	38.8	2.6

学年	年度	していない	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上
2	R1	23.6	31.5	40.3	4.6
	R2	21.2	31.0	42.5	5.2
	R3	21.5	32.0	41.1	5.3
	R4	20.0	33.9	41.3	4.7
	R5	23.5	33.7	38.4	4.4

（5年間の推移について）

1時間以上3時間未満、3時間以上の生徒の割合が減少傾向にある。

③読書について

- ・ I (18) 「1か月に何冊くらい本を読みますか。(教科書や問題集、漫画をのぞく。)」に対して「読まない」と回答した生徒の割合の推移

	中学校2学年の時	高等学校1学年の時	高等学校2学年の時
令和5年度高等学校1学年	16.3 *	51.2	
令和5年度高等学校2学年	**	48.1	56.7

(注) * : 集計対象者数は21,097名(令和3年度広島県学力調査報告書より)

** : 中学校2学年時(令和2年度)の調査は、未実施

(中学校2学年から高等学校2学年までの推移について)

読書をしない生徒の割合は、中学校から高等学校に向けて増加傾向にある。

(2) 学習に関する調査について

①授業形態について

- ・ 授業形態及び学習方法に関する次の質問項目に対して、肯定的回答(「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」)をした生徒の割合の推移

番号	質問項目	学年	R1	R2	R3	R4	R5
II (36)	「授業では、少人数で学習した方がよくわかります。」	1	69.2	67.1	66.3	67.9	68.1
		2	73.3	71.9	69.3	74.1	73.4
II (37)	「授業では、自分の学習進度に合わせて教えてもらった方がよくわかります。」	1	87.3	87.7	87.5	89.2	89.4
		2	88.4	88.6	88.0	90.3	90.6
II (38)	「授業では、ペア・グループ等で互いに考えを伝え合いながら学習する方がよくわかります。」	1	72.3	75.3	77.5	80.1	79.3
		2	66.8	68.6	71.3	75.4	75.1
II (39)	「授業では、作業や体験を通して学習した方がよくわかります。」	1	84.6	87.2	87.8	90.2	90.2
		2	83.8	85.1	87.0	88.9	89.3
II (40)	「授業では、講義よりも自分で課題を解決していく学習の方がよくわかります。」	1	60.5	60.7	62.0	66.3	65.6
		2	62.4	60.5	62.3	66.0	66.4

(5年間の推移について)

5項目中4項目((37)「授業では、自分の学習進度に合わせて教えてもらった方がよくわかります。」、(38)「授業では、ペア・グループ等で互いに考えを伝え合いながら学習する方がよくわかります。」、(39)「授業では、作業や体験を通して学習した方がよくわかります。」、(40)「授業では、講義よりも自分で課題を解決していく学習の方がよくわかります。」)の生徒の割合が増加傾向にある。

②デジタル機器を活用した学習について

- ・デジタル機器を活用した学習に関する次の質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」）をした生徒の割合の推移

番号	質問項目	学年	R1	R2	R3	R4	R5
II (59)	「プリントだけを用いた学習よりも、コンピュータなどのデジタル機器も活用した学習の方が、やる気が高まります。」	1	66.6	70.6	67.5	67.7	67.4
		2	65.0	67.7	67.3	68.9	67.6
II (60)	「わからないことや必要な情報を、すぐに知りたいときは、インターネットを活用して調べます。」	1	89.1	93.1	94.7	95.2	95.2
		2	89.6	92.4	93.4	95.8	95.9
II (61)	「プリントだけを用いた学習よりも、コンピュータなどのデジタル機器も活用した学習の方が、よくわかります。」	1	66.9	71.6	70.5	74.5	74.2
		2	65.4	68.8	69.5	75.0	75.9
II (62)	「レポートやプレゼンテーションの資料を作成したり、修正したりする際には、コンピュータなどのデジタル機器を活用します。」	1	45.2	65.9	79.1	84.4	86.0
		2	52.1	54.7	72.2	86.6	88.9
II (63)	「グループ学習などで、自分の意見や考えを伝えやすくするために、コンピュータなどのデジタル機器を活用します。」	1	28.5	50.6	65.3	66.6	70.4
		2	32.7	35.2	54.7	71.8	73.5

（5年間の推移について）

デジタル機器を活用した学習については、全体的に増加傾向にあり、特に（63）「グループ学習などで、自分の意見や考えを伝えやすくするために、コンピュータなどのデジタル機器を活用します。」という生徒の割合が急増している。

③「主体的な学び」について

- ・「主体的な学び」に関する質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」）をした生徒の割合の推移

		「主体的な学び」に関する質問項目	学年	R1	R2	R3	R4	R5
学習習慣	Ⅱ(26)	「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」	1	79.5	81.4	81.4	83.4	81.4
			2	78.3	80.1	80.6	82.4	81.1
	Ⅱ(27)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	1	63.3	65.6	64.8	67.8	65.7
			2	64.1	64.4	65.6	68.3	66.7
	Ⅱ(28)	「自分から進んで勉強します。」	1	45.2	46.2	47.1	47.1	44.3
			2	44.5	47.1	47.9	48.1	45.6
学習行動	Ⅱ(41)	「物事を筋道立てて考えようとしています。」	1	68.0	70.0	69.8	74.2	71.5
			2	69.5	71.2	71.9	75.6	74.5
	Ⅱ(44)	「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとしています。」	1	85.8	88.0	88.5	87.1	86.8
			2	85.4	87.7	88.4	87.1	87.6
	Ⅱ(46)	「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」	1	53.2	55.7	57.1	62.5	60.1
			2	53.9	54.3	56.5	61.6	62.0
	Ⅱ(48)	「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」	1	51.3	54.4	55.5	57.3	57.0
			2	49.8	51.8	53.9	58.3	57.7
総合	Ⅱ(53)	「総合的な探究の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	1	67.9	72.1	73.8	77.7	78.2
			2	69.3	74.1	75.8	81.4	80.9

（5年間の推移について）

学習習慣については、(26)「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」、(27)「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」は増加傾向にあるが、(28)「自分から進んで勉強します。」という生徒の割合は5割程度にとどまっている。

学習行動及び総合については、肯定的回答をした生徒の割合がおおむね増加傾向にある。

(3) 主体的な学びと生活等及び学習行動との関係について

①学習に関する質問項目（主体的な学び）の回答と生活等に関する質問項目の回答との相関

(学習に関する質問項目（主体的な学び）と生活等に関する質問項目)

番号	分類	質問項目
I (6)	生活等に関する質問項目	「自分のよさは、周りの人から認められていると思います。」
I (8)		「努力すれば、将来の夢や目標はかなうと思います。」
I (9)		「将来、留学したい又は海外で働きたいと思います。」
I (10)		「将来の夢や目標を持っています。」
I (11)		「将来、身近な地域に貢献したいと思います。」
I (12)		「広島県（自分が住んでいる地域）が好きです。」
I (13)		「授業や学校以外の場において、外国人と積極的にコミュニケーションをとります。」
I (15)		「本を読んで、自分の生き方や社会との関わり方について考えることがあります。」
II (26)	学習に関する質問項目（主体的な学び）	「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」
II (27)		「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」
II (28)		「自分から進んで勉強します。」
II (41)		「物事を筋道立てて考えようとします。」
II (44)		「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとします。」
II (46)		「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」
II (48)		「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」
II (53)		「総合的な探究の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」

(相関の目安)

相関係数	意味
0.8～1.0	強い相関がある
0.5～0.8	かなり相関がある
0.2～0.5	やや相関がある
0.0～0.2	ほとんど相関がない

(学習に関する質問項目（主体的な学び）の回答と生活等に関する質問項目の回答との相関)

番号		生活等に関する質問項目							
		I (6)	I (8)	I (9)	I (10)	I (11)	I (12)	I (13)	I (15)
学習に関する質問項目 (主体的な学び)	Ⅱ (26)	0.22	0.28	0.10	0.20	0.26	0.24	0.12	0.21
	Ⅱ (27)	0.20	0.22	0.24	0.27	0.25	0.19	0.22	0.32
	Ⅱ (28)	0.22	0.22	0.20	0.24	0.25	0.14	0.19	0.24
	Ⅱ (41)	0.22	0.20	0.16	0.20	0.19	0.15	0.16	0.28
	Ⅱ (44)	0.24	0.22	0.13	0.18	0.17	0.18	0.10	0.24
	Ⅱ (46)	0.18	0.16	0.19	0.18	0.24	0.16	0.23	0.35
	Ⅱ (48)	0.18	0.15	0.16	0.16	0.20	0.13	0.22	0.30
	Ⅱ (53)	0.24	0.21	0.11	0.19	0.20	0.20	0.10	0.18

※ 小数点以下第2位で四捨五入して示しているため、相関係数と網掛けが一致しない場合がある。

(相関について)

学習に関する質問項目（主体的な学び）の回答とやや相関関係にあると考えられる生活等に関する質問項目（相関係数が0.2以上の項目が5つ以上の質問項目）は、I(6)「自分のよさは、周りの人から認められていると思います。」、I(8)「努力すれば、将来の夢や目標はかなうと思います。」、I(11)「将来、身近な地域に貢献したいと思います。」、I(15)「本を読んで、自分の生き方や社会とのかかわり方について考えることがあります。」である。

② II (28) 「自分から進んで勉強します。」の回答と学習に関する質問項目の回答との相関

(II (28) 「自分から進んで勉強します。」の回答と学習に関する質問項目の回答との相関係数が 0.40 以上の質問項目)

番号	学習に関する質問項目	相関係数
II (24)	「何のために勉強するか、言うことができます。」	0.40
II (27)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	0.42
II (29)	「ふだんから計画を立てて勉強に取り組みます。」	0.65
II (30)	「わからない問題でも、あきらめないでやってみます。」	0.48
II (31)	「答が間違っていたとき、その理由を確かめます。」	0.42
II (32)	「予習や復習（宿題を含む。）をします。」	0.48
II (33)	「授業で習ったことをできるだけ暗記しようとします。」	0.42
II (34)	「問題集などを使って、できるだけ多くの問題を解くようにします。」	0.54

(相関について)

(28) 「自分から進んで勉強します。」の質問項目の回答と学習に関する質問項目との間では、すべての項目について相関がある。

2 学校質問紙調査

(1) 各教科の指導に関する調査について

①各教科における学習の振り返りと授業改善について

- ・各教科における学習の振り返りと授業改善に関する次の質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」）をした割合の推移

番号	質問項目	教科	学年	R1	R2	R3	R4	R5
Ⅲ1(8) 2(8) 3(8)	「(国語科・数学科・外国語科)では、思考の過程を整理させるなど、学習したことを振り返らせる指導を取り入れている。」	国語	1	85.7	88.2	94.1	98.3	98.3
			2	88.4	93.3	95.0	94.0	96.6
		数学	1	84.0	91.6	89.8	88.0	98.3
			2	86.8	89.9	89.1	88.9	98.3
		外国語	1	77.3	91.6	83.9	90.6	90.5
			2	77.7	89.1	86.6	93.1	92.2
Ⅲ1(14) 2(13) 3(14)	「(国語科・数学科・外国語科)では、定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題し、その結果を分析し授業改善に生かしている。」	国語	1	84.9	91.6	89.0	96.6	94.8
			2	86.8	92.4	87.4	94.9	94.8
		数学	1	80.7	89.1	83.9	97.4	92.2
			2	78.5	87.4	85.7	94.0	92.2
		外国語	1	85.7	92.4	89.0	94.9	94.0
			2	82.6	91.6	92.4	95.7	94.0

(5年間の推移について)

国語科・数学科・外国語科において、学習したことを振り返らせる指導を行っている割合、定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題し、その結果を分析し授業改善に生かしている割合は9割を超えている。

②主体的な学びに関する調査について

- ・国語科・数学科・外国語科において、特に主体的な学びに関連すると考えられる次の質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」）をした割合の推移

番号	質問項目	学年	R1	R2	R3	R4	R5
Ⅲ1(6)	「国語科では、読んだり聞いたりしたことや、あるテーマについて自分の考えを述べたり書いたりする学習活動を取り入れている。」	1	90.8	98.3	95.8	99.1	98.3
		2	95.0	95.8	95.0	97.4	97.4
Ⅲ2(4)	「数学科では、定理や公式などの意味を理解させるような指導を工夫している。」	1	89.9	93.3	91.5	94.0	94.8
		2	90.9	90.8	89.9	92.3	94.0
Ⅲ3(5)	「外国語科では、学習した文法事項や表現を用いて日常生活にかかわる内容を理解したり表現したりする活動を取り入れている。」	1	84.9	92.4	95.8	94.9	98.3
		2	83.5	89.9	95.0	94.8	97.4

(5年間の推移について)

国語科において自らの考えを表現させる学習活動、数学科において定理や公式などの意味を理解させるような学習活動、外国語科において既習事項を用いて日常生活にかかわる内容についての学習活動を取り入れている授業の割合は9割を超えている。

③デジタル機器の活用について

・国語科・数学科・外国語科において、デジタル機器の活用に関する次の質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」）をした割合の推移

番号	質問項目	教科	学年	R1	R2	R3	R4	R5
Ⅲ1(9) 2(9) 3(9)	「(国語科・数学科・外国語科)では、デジタル機器を活用した授業を行っている。」	国語	1	40.3	61.3	80.5	92.3	91.4
			2	44.6	56.3	79.0	88.9	90.5
		数学	1	29.4	68.9	76.3	83.8	84.5
			2	38.0	64.7	68.9	80.3	84.5
		外国語	1	55.5	85.7	92.4	94.9	96.6
			2	52.1	78.8	86.6	94.8	94.8

(5年間の推移について)

国語科・数学科・外国語科において、デジタル機器を活用した授業を行っている割合は、国語科及び外国語科は9割、数学科は8割を超えている。

(2) その他の教育活動に関する調査について

- ・カリキュラム・マネジメントに関連する7つの質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」）をした割合の推移

番号	カリキュラム・マネジメントに関連する 質問項目	学年	R1	R2	R3	R4	R5
I (9)	「学校の実態や課題に即して具体化された学校教育目標を、全教職員が理解している。」	1	97.5	98.3	97.5	95.7	96.6
		2	96.7	99.2	98.3	99.1	98.3
I (10)	「学校の実態や課題に即して具体化された学校教育目標を、生徒や保護者と共有している。」	1			88.1	88.0	89.7
		2			88.2	91.5	87.9
I (11)	「重点目標（学校教育目標から定められた単年度ごとに達成すべき具体的目標）を、全教職員が理解している。」	1	99.2	95.8	96.6	94.9	96.6
		2	98.3	96.6	95.0	98.3	97.4
I (12)	「重点目標（学校教育目標から定められた単年度ごとに達成すべき具体的目標）達成のための教育活動の計画及び実施がされている。」	1	98.3	95.0	99.2	95.7	98.3
		2	96.7	95.0	98.3	99.1	99.1
I (13)	「教育活動の成果を測るための評価指標が設定され、それに基づいた成果検証を行うために必要なデータが収集されている。」	1	81.5	84.0	94.1	92.3	94.8
		2	87.6	83.2	90.8	94.0	94.8
I (14)	「データを基に教育活動の成果が検証され、その結果が重点目標（学校教育目標から定められた単年度ごとに達成すべき具体的目標）や評価指標の見直しに生かされている。」	1	78.2	80.7	93.2	91.5	94.0
		2	83.5	81.5	89.1	89.7	95.7
I (15)	「地域等の外部の資源を含めて、教育活動に必要な人的・物的資源等を活用している。」	1	95.0	94.1	95.8	90.6	91.4
		2	97.5	95.8	95.8	94.0	95.7

※I(10)は令和3年度からの新規項目

(カリキュラム・マネジメントの実施状況について)

学校教育目標や重点目標の理解、重点目標達成のための教育活動の計画及び実施については、ほぼ全ての学校で行われている。5年間の推移では、(13)「教育活動の成果を測るための評価指標が設定され、それに基づいた成果検証を行うために必要なデータが収集されている。」、(14)「データを基に教育活動の成果が検証され、その結果が重点目標（学校教育目標から定められた単年度ごとに達成すべき具体的目標）や評価指標の見直しに生かされている。」の項目が増加傾向にある。

3 学校質問紙調査と生徒質問紙調査

(1) 活用問題の取組と生徒の学習行動との関係について

- ①学校質問紙Ⅰ(18)「定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題する取組を学校全体で組織的に進めている。」に対して、「よくあてはまる」を回答している学校(学校群Ⅰ)とそれ以外の回答をしている学校(学校群Ⅱ)に分けた。
- ②各学校群について、生徒質問紙の学習に関する質問項目(主体的な学び)に対して肯定的な回答(「あてはまる」又は「ややあてはまる」)を選択した生徒の割合及びその差をまとめた。

(肯定的な回答をしている生徒の割合)

番号	質問	学校群Ⅰ	学校群Ⅱ	差
Ⅱ(26)	「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」	81.3	80.9	0.4
Ⅱ(27)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	67.6	61.6	6.0
Ⅱ(28)	「自分から進んで勉強します。」	46.1	41.1	5.0
Ⅱ(41)	「物事を筋道立てて考えようとします。」	73.9	69.9	4.0
Ⅱ(44)	「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとします。」	87.8	85.3	2.4
Ⅱ(46)	「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」	62.0	58.1	3.9
Ⅱ(48)	「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」	58.7	53.0	5.7
Ⅱ(53)	「『総合的な探究の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	80.6	75.6	5.0

※網掛け部分は学校群Ⅰと学校群Ⅱの差が大きいもの上位3つを示している。

※学校群Ⅰ、学校群Ⅱの割合の差について、小数第2位を四捨五入している。

(活用問題の取組と生徒の学習行動との関係について)

学校群Ⅰは、(27)「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」、(28)「自分から進んで勉強します。」、(48)「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」、(53)「『総合的な探究の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」について、学校群Ⅱよりも肯定的な回答をしている生徒の割合の差が大きい。

(2) 多様な評価方法を取り入れた評価活動の取組と生徒の学習行動との関係について

①学校質問紙Ⅰ(19)「生徒の資質・能力の育成状況を見取るために、多様な評価方法を取り入れている。」に対して、「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」を回答している学校(学校群Ⅰ)とそれ以外の回答をしている学校(学校群Ⅱ)に分けた。

②各学校群について、生徒質問紙の学習に関する質問項目(主体的な学び)に対して、肯定的な回答(「あてはまる」又は「ややあてはまる」)を選択した生徒の割合及びその差をまとめた。

(肯定的な回答をしている生徒の割合)

番号	質問	学校群Ⅰ	学校群Ⅱ	差
Ⅱ(26)	「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」	81.3	78.8	2.5
Ⅱ(27)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	66.3	61.1	5.2
Ⅱ(28)	「自分から進んで勉強します。」	45.1	32.3	12.8
Ⅱ(41)	「物事を筋道立てて考えようとしています。」	73.1	67.0	6.1
Ⅱ(44)	「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとしています。」	87.2	85.5	1.7
Ⅱ(46)	「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」	61.1	58.6	2.5
Ⅱ(48)	「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」	57.4	54.7	2.7
Ⅱ(53)	「総合的な探究の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	79.7	66.5	13.2

※網掛け部分は学校群Ⅰと学校群Ⅱの差が大きいもの上位3つを示している。

※学校群Ⅰ、学校群Ⅱの割合の差について、小数第2位を四捨五入している。

(多様な評価方法を取り入れた評価活動の取組と生徒の学習行動との関係について)

学校群Ⅰは、(27)「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」、(48)「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」、(53)「総合的な探究の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」について、学校群Ⅱよりも肯定的な回答をしている生徒の割合の差が大きい。

(3) カリキュラム・マネジメントの取組と生徒の学習行動との関係について

- ①学校質問紙Ⅰ(9)～Ⅰ(15)のカリキュラム・マネジメントに関連する質問項目に対して、「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」を回答している割合の高い学校(学校群Ⅰ)とそれ以外の学校(学校群Ⅱ)に分けた。
- ②各学校群について、生徒質問紙の学習に関する質問項目(主体的な学び)に対して肯定的な回答(「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」)を選択した生徒の割合及びその差をまとめた。

(肯定的な回答をしている生徒の割合)

番号	質問	学校群Ⅰ	学校群Ⅱ	差
Ⅱ(26)	「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」	81.6	79.6	1.9
Ⅱ(27)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	67.0	62.5	4.5
Ⅱ(28)	「自分から進んで勉強します。」	45.4	42.9	2.5
Ⅱ(41)	「物事を筋道立てて考えようとします。」	73.4	71.2	2.2
Ⅱ(44)	「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとします。」	87.4	86.1	1.4
Ⅱ(46)	「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」	61.6	58.5	3.1
Ⅱ(48)	「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」	57.9	54.9	2.9
Ⅱ(53)	「『総合的な探究の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	79.9	78.4	1.5

※網掛け部分は学校群Ⅰと学校群Ⅱの差が大きいもの上位3つを示している。

※学校群Ⅰ、学校群Ⅱの割合の差について、小数第2位を四捨五入している。

(カリキュラム・マネジメントの取組と生徒の学習行動との関係について)

学校群Ⅰは、(27)「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」、(46)「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」、(48)「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」について、学校群Ⅱよりも肯定的な回答をしている生徒の割合の差が大きい。

(4) 授業におけるデジタル機器の活用と生徒の学習行動との関係について

- ①学校質問紙Ⅱ(25)～Ⅱ(27)、Ⅲ1(9)、Ⅲ2(9)、Ⅲ3(9)の授業におけるデジタル機器の活用に関する質問項目に対して、「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」を回答している割合の高い学校(学校群Ⅰ)とそれ以外の学校(学校群Ⅱ)に分けた。
- ②各学校群について、生徒質問紙の学習に関する質問項目(主体的な学び)に対して肯定的な回答(「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」)を選択した生徒の割合及びその差をまとめた。

(肯定的な回答をしている生徒の割合)

番号	質問	学校群Ⅰ	学校群Ⅱ	差
Ⅱ(26)	「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」	81.2	81.3	-0.1
Ⅱ(27)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	66.6	64.4	2.2
Ⅱ(28)	「自分から進んで勉強します。」	45.6	41.9	3.6
Ⅱ(41)	「物事を筋道立てて考えようとします。」	73.5	70.5	3.0
Ⅱ(44)	「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとします。」	87.5	85.8	1.7
Ⅱ(46)	「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」	61.3	59.9	1.4
Ⅱ(48)	「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」	57.3	57.6	-0.4
Ⅱ(53)	「『総合的な探究の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	79.6	79.5	0.2

※網掛け部分は学校群Ⅰと学校群Ⅱの差が大きいもの上位3つを示している。

※学校群Ⅰ、学校群Ⅱの割合の差について、小数第2位を四捨五入している。

(授業におけるデジタル機器の活用と生徒の学習行動との関係について)

学校群Ⅰは、(27)「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」、(28)「自分から進んで勉強します。」、(41)「物事を筋道立てて考えようとします。」について、学校群Ⅱよりも肯定的な回答をしている生徒の割合の差が大きい。

(5) 主体的な学びの実践と生徒の学習行動との関係について

- ①学校質問紙Ⅰ(7)、Ⅰ(8)の主体的な学びの実践に関連する質問項目に対して、「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」を回答している割合の高い学校(学校群Ⅰ)とそれ以外の学校(学校群Ⅱ)に分けた。
- ②各学校群について、生徒質問紙の学習に関する質問項目(主体的な学び)に対して肯定的な回答(「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」)を選択した生徒の割合及びその差をまとめた。

(肯定的な回答をしている生徒の割合)

番号	質問	学校群Ⅰ	学校群Ⅱ	差
Ⅱ(26)	「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」	81.2	80.5	0.7
Ⅱ(27)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	66.5	63.6	2.9
Ⅱ(28)	「自分から進んで勉強します。」	45.4	45.2	0.2
Ⅱ(41)	「物事を筋道立てて考えようとします。」	72.9	74.0	-1.1
Ⅱ(44)	「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとします。」	87.2	88.7	-1.6
Ⅱ(46)	「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」	61.2	61.0	0.2
Ⅱ(48)	「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」	57.6	56.3	1.2
Ⅱ(53)	「『総合的な探究の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	79.6	80.9	-1.3

※網掛け部分は学校群Ⅰと学校群Ⅱの差が大きいもの上位3つを示している。

※学校群Ⅰ、学校群Ⅱの割合の差について、小数第2位を四捨五入している。

(主体的な学びの実践と生徒の学習行動との関係について)

学校群Ⅰは、(26)「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」、(27)「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」、(48)「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」について、学校群Ⅱよりも肯定的な回答をしている生徒の割合の差が大きい。

(6) 読書活動の促進に関する取組と生徒の学習行動との関係について

- ①学校質問紙Ⅰ(20)～Ⅰ(23)の読書活動の促進に関連する質問項目に対して、「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」を回答している割合の高い学校(学校群Ⅰ)とそれ以外の学校(学校群Ⅱ)に分けた。
- ②各学校群について、生徒質問紙の学習に関する質問項目(主体的な学び)に対して肯定的な回答(「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」)を選択した生徒の割合及びその差をまとめた。

(肯定的な回答をしている生徒の割合)

番号	質問	学校群Ⅰ	学校群Ⅱ	差
Ⅱ(26)	「勉強は、自分のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」	82.3	79.5	2.8
Ⅱ(27)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	67.9	63.6	4.3
Ⅱ(28)	「自分から進んで勉強します。」	46.7	42.2	4.5
Ⅱ(41)	「物事を筋道立てて考えようとしています。」	74.8	70.3	4.4
Ⅱ(44)	「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとしています。」	88.5	85.1	3.4
Ⅱ(46)	「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」	62.8	58.5	4.3
Ⅱ(48)	「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪しを判断しようとしています。」	58.9	54.9	4.0
Ⅱ(53)	「『総合的な探究の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	81.3	77.4	3.8

※網掛け部分は学校群Ⅰと学校群Ⅱの差が大きいもの上位3つを示している。

※学校群Ⅰ、学校群Ⅱの割合の差について、小数第2位を四捨五入している。

(読書活動の促進に関する取組と生徒の学習行動との関係について)

学校群Ⅰは、(27)「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」、(28)「自分から進んで勉強します。」、(41)「物事を筋道立てて考えようとしています。」、(46)「社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。」について、学校群Ⅱよりも肯定的な回答をしている生徒の割合の差が大きい。

(7) 学校で育成を目指す資質・能力と学校の教育活動、生徒の生活行動、学習行動との関係について生徒質問紙Ⅱ(64)「自分たちの学校がどんな資質・能力を生徒に育成しようとしているかを知っています。」及び(65)「自分は学校が育成を目指す資質・能力を身に付けていると思います。」と学校質問紙の「I 教育活動全般に関する調査」の項目及び生徒質問紙におけるすべての項目との相関を調べた。学校質問紙、生徒質問紙それぞれにおいて相関係数を算出した結果、上位5項目をまとめた。

	順位	(64)	(65)
学校質問紙	1	I (20) SHR等を利用して「朝の読書」を実施するなど、生徒の読書活動を促進する取組を実施している。 [0.068]	I (20) SHR等を利用して「朝の読書」を実施するなど、生徒の読書活動を促進する取組を実施している。 [0.046]
	2	I (15) 地域等の外部の資源を含めて、教育活動に必要な人的・物的資源等を活用している。[0.056]	I (16) カリキュラム・マネジメントに係る校内研修を組織的、計画的に実施している。[0.045]
	3	I (24) 生徒には学校が育成を目指す資質・能力が身に付いている。[0.045]	I (15) 地域等の外部の資源を含めて、教育活動に必要な人的・物的資源等を活用している。[0.045]
	4	I (21) 生徒の発達段階や実態に応じて、本に親しませる取組を実施している。[0.041]	I (1) 公開で研究授業を実施している。 [0.029]
	5	I (19) 生徒の資質・能力の育成の状況を見取るために、多様な評価方法を取り入れている。[0.039]	I (23) 図書館資料の適切な廃棄・更新に努めている。[0.023]
生徒質問紙	1	(65) 自分は学校が育成を目指す資質・能力を身に付けていると思います。 [0.539]	(64) 自分たちの学校がどんな資質・能力を生徒に育成しようとしているかを知っています。[0.539]
	2	(52) 学んだことを日常生活にどう活用できるかを考えます。[0.329]	(52) 学んだことを日常生活にどう活用できるかを考えます。[0.345]
	3	(63) グループ学習などで、自分の意見や考えを伝えやすくするために、コンピュータなどのデジタル機器を活用します。[0.316]	(28) 自分から進んで勉強します。[0.307]
	4	(46) 社会や自然などの事象間の関係を考えようとしています。[0.287]	(6) 自分のよさは、周りの人から認められていると思います。[0.305]
	5	(24) 何のために勉強するか、言うことができます。[0.287]	(29) ふだんから計画を立てて勉強に取り組みます。[0.300]

※ [] 内は相関係数

(学校で育成を目指す資質・能力と学校の教育活動、生徒の生活行動、学習行動との関係について)
学校質問紙の質問項目との相関はほとんどない。

生徒質問紙においては、(64)「自分たちの学校がどんな資質・能力を生徒に育成しようとしているかを知っています。」と(65)「自分は学校が育成を目指す資質・能力を身に付けていると思います。」の相関が高い。また、(64)及び(65)いずれにも相関が見られる質問項目は、(52)「学んだことを日常生活にどう活用できるかを考えます。」であった。